行贈位也、又位記宣命可内覽哉否、被問先例、大外記定俊申云、閑院太政大臣時、兼不可内覽之由殿下被仰者、仍令少外記申此旨於殿下、返來云、彼例不可内覽者、蕘奏本不内覽也、仍不被申也、宣命位記草可奏聞哉否條、先被問大外記、申云、可被奏聞是先例也、清書請印之後、重相具宣命可被奏者、仍隨定俊眞人申被仰也、　九日、無平座、依爲廢朝中也、但内藏寮居酒肴於殿上如例諸司供菊花、　十一日、例幣延引之由有大祓、宰相中將保實行之、右少辨遲參、不被著者、　十二日、早朝上御簾、并有音奏、依避日次、引及今日歟、

〔柱史抄下〕贈官位事

贈官位

母后并外祖父母多有此事、上卿召内記、内記參軾、仰云、某人可贈、虫損　后宮某人可叙其位、詔書宣命位記任例可奉仕者、被仰下准據之例、即各成草、參進内覽、奏下如恒、若於位記者、直清書進之、自餘草許也、　上卿於本座、召大内記仰清書事、清書覆奏如例、詔書有御畫、上卿召中務輔賜之、贈后宮宣命使、參議次官五位殿上人也、上卿召少納言給贈位位記宣命、告文於墓所燒之、至位記者、持向彼子息許之、或以少納言差遣、依人可有其事、

〔大鏡後一條〕世はじまりてのち、大臣みなおはしけり、○中略　あるひはみかどの御おほぢ、あるひは御門の御をぢぞなり給ふめる、またそかのごとく帝王の御おほぢをぢなどにて御うしろみし給ふ、大臣納言かずおほくおはす、うせ給ひてのち、贈太政大臣などになり給へるたぐひあまたおはすめり、さやうのたぐひ七人或本十人ばかりやおはすらん、わざとの太政大臣はなりがたくすくなくぞおはする、

〔續日本紀八元正〕養老四年八月癸未、是日右大臣正二位藤原朝臣不比等薨、　十月壬寅、詔遣大納言正三位長屋王、中納言正四位下大伴宿禰旅人、就右大臣第宣詔、贈太政大臣正一位、

〔愚管抄一元正〕不比等大臣は、養老四年八月三日薨、謚號淡海公、聖武の外祖にて、病に臥給ふより重く殊にもてなされ給ふ、贈太政大臣と云々、

〔續日本紀十聖武〕天平五年十二月辛酉、遣一品舍人親王、大納言正三位藤原朝臣武智麻呂、式部卿從